

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2022年5月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2022年5月13日～5月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 129社
- 回収率 64.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の5月の状況を見ると業況DIは、前月より0.4ポイント悪化の▲24.8となった。

2017年9月以来57ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲19.4、当月と比べ5.4ポイントの改善が見込まれる。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

| | 2021年 12月 | 2022年 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 先行き見通し 2022年6月～ 2022年8月 |
|------|--------------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------------------------------|
| 業況 | ▲23.0 | ▲25.2 | ▲35.4 | ▲28.1 | ▲24.4 | ▲24.8 | ▲19.4 |
| 売上 | ▲6.3 | ▲10.0 | ▲26.8 | ▲15.9 | ▲17.4 | ▲6.2 | ▲3.9 |
| 採算 | ▲21.4 | ▲27.5 | ▲33.9 | ▲29.8 | ▲29.1 | ▲24.8 | ▲21.7 |
| 仕入単価 | ▲65.9 | ▲68.7 | ▲68.5 | ▲74.2 | ▲78.7 | ▲76.7 | ▲72.0 |
| 販売単価 | 8.7 | 13.0 | 14.2 | 18.2 | 22.0 | 26.3 | 27.9 |
| 従業員 | 23.1 | 23.7 | 21.3 | 28.1 | 25.2 | 34.1 | 36.4 |
| 資金繰り | ▲6.3 | ▲11.5 | ▲22.0 | ▲18.2 | ▲15.7 | ▲11.6 | ▲15.5 |

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

| | 2021年 12月 | 2022年 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 先行き見通し 2022年6月～ 2022年8月 |
|------|--------------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------------------------------|
| 建設 | ▲32.2 | ▲27.6 | ▲35.7 | ▲34.5 | ▲27.6 | ▲46.7 | ▲40.0 |
| 製造 | ▲26.7 | ▲9.7 | ▲23.3 | ▲6.9 | ▲22.6 | ▲20.0 | ▲20.0 |
| 卸売 | ▲7.4 | ▲28.5 | ▲35.7 | ▲30.0 | ▲28.5 | ▲22.2 | ▲11.1 |
| 小売 | ▲23.5 | ▲44.4 | ▲44.4 | ▲38.9 | ▲22.2 | ▲20.0 | ▲20.0 |
| サービス | ▲25.0 | ▲24.0 | ▲43.5 | ▲34.6 | ▲19.1 | ▲9.1 | 0.0 |

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

| | |
|-------|--|
| 建設業 | <ul style="list-style-type: none"> ・工事担当者及び下請業者の不足のため、工事受注量を制限せざるを得ない。（総合工事） ・工事量は、昨年と比べ戸建てを中心に減少傾向にある。また、原油高やコストプッシュによる物価上昇が利益を圧迫している。さらに、ロシアのウクライナ侵攻に端を発したエネルギー問題が今後の景気先行きに影を落とすことに懸念を感じている。なお、人材については不足気味で、即戦力（資格保有者）と将来を見据えて若い人材の確保を積極的に進めたいと常に考えている。（設備その他） ・木材価格は高止まり。合板は更に上昇の恐れがあり、販売単価も上げざるを得ないもののリフォームは大小物件有。ただしアスベスト処理の義務化もあり、やはり更に販売単価の上昇、手間の増加を見込む必要がある。（建築業） |
| 製造業 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の景気感に変化なく一向に状況の厳しさは変わらないと感じている。特に仕入原料単価の上昇が今後も予想されるため、弊社商品の販売単価を見直さなければと思っている。今後商談会にも積極的に参加し新商品の紹介等、販売向上に繋げていきたい。（食料品） ・今年になって段階的に2度目の材料値上げ要請が来ている。当初は売上転嫁をしていたが今は、なかなか出来ない状況。（印刷・出版） ・一部樹種の原材料である原木に不足感がある。（家具・木材） ・材料の急激な上昇（約50%）により価格転嫁が出来ていないため加工費が半分以上に落ちている。今後の新規物件に対しての価格交渉が大切になる。（金属窯業他） |
| 卸売業 | <ul style="list-style-type: none"> ・仕入原材料の上昇により販売価格を値上げし売上が少し下がったが、夏場の季節商品に期待している。（飲食料品） ・前年度と同等の業況であるが、世界情勢もあり経費増加は確実なため、利益の追求に努めなければならない。（機械鋼材） ・当社の主たる取引先は生産農家が多く、昨今の資材や肥料の高騰により今後販売額や数量などに影響することが懸念される。仕入価格を販売価格に徐々に反映させていくことが当面の課題となる。（その他） ・灯油の仕入値は補助金の効果もあり大きな変動がなく、販売価格も現在の価格水準で続いている。（その他） |
| 小売業 | <ul style="list-style-type: none"> ・来店客が非常に少ない。自社商品をInstagramに掲載し、顧客以外にも情報を発信することで来店客を増やしたいと考えている。（衣服身回品） ・コロナ下ではあるも昨年より売上増加傾向。しかし原材料・光熱費等の価格上昇が大きく現状では未だ販売価格への転嫁が進んでいない。現状、何もしなければ増収となるも利益なしの状況となる。早期に商品価格の見直しを実施したいが、時期と上げ幅が課題となっている。（食料品） ・予想しづらい状況が続くだろう。旅行や行動制限がないのは好材料だが、せっかくの補助金上限増額で価格を抑えているが、相変わらず安価販売競争に影響するだろう。（その他） ・コスト増、価格転嫁。（自動車） |
| サービス業 | <ul style="list-style-type: none"> ・全般的に人員不足。（ホテル・旅館） ・新型コロナウイルスによる影響は未だ感じないが、一番の懸念材料はベテラン技術者の定年退職増加による生産性の下落であり、新卒者の採用は順調であるが、即戦力となる経験者を採用したいのが本音である。（その他） ・食材費が高騰しておりメニューの価格に転嫁したいがどれくらいの幅で上げるべきか判断が難しい。客数はコロナ前の6割程度か。（飲食） ・GW期間など天候に恵まれた日の人出は3年ぶりに活気が戻り、そのこと自体は歓迎すべきことであり地域全体も活力上昇に期待する。イベントスケジュールの復活も好材料。当社事業においてはコロナ以外には燃料価格推移が大きな懸念であるが、コロナ前の水準の8割到達を目標としたい。（運送） ・感染者数が高止まりしているが、移動規制等がかからないことから都市間、市内路線共に利用者回復傾向にある。しかしコロナの影響が無かった時点までの回復にはほど遠い。ウクライナ情勢、円安等による燃料価格の高騰が、経営に大きな影響を及ぼしている。更に乗務員不足が深刻の度を増やしており、現在の輸送体制を維持することが困難な状況となってきている。（運送） |

旭川市の産業別概況

| 産業 | 概況 |
|-------|---|
| 建設業 | <p>売上 DI6.0 ポイント悪化、採算 DI12.4 ポイント悪化、仕入単価 DI0.7 ポイント悪化、販売単価 DI3.1 ポイント改善、資金 DI 横ばい、従業員 DI5.1 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 19.1 ポイント悪化となった。業種別では、建築業横ばい、総合工事 28 ポイント、設備・その他 20 ポイント悪化となった。6 月頃から受注物件が増加。但し需給単価と仕入単価の差が有り、内容的には厳しい。特にコンクリートパネル、木材等について世界的パンデミック、ウッドショック等の原因で確保が難しい。価格も上昇との声も寄せられている。</p> |
| 製造業 | <p>売上 DI22.9 ポイント改善、採算 DI2.3 ポイント改善、仕入単価 DI0.2 ポイント改善、販売単価 DI2.0 ポイント悪化、資金 DI6.1 ポイント改善、従業員 DI2.9 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 2.6 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品が 14 ポイント、金属窯業他 10 ポイント悪化、印刷出版 29 ポイント、家具・木材 16 ポイント改善となった。仕入資材の価格上昇が止まらない。塗料、運賃、電気・ガス料金も上昇。物件の受注も延期やキャンセルが発生しているとの声も寄せられている。</p> |
| 卸売業 | <p>売上 DI3.1 ポイント改善、採算 DI10.2 ポイント改善、仕入単価 DI2.8 ポイント悪化、販売単価 DI1.9 ポイント改善、資金 DI0.5 ポイント悪化、従業員 DI19.1 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 6.3 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、その他 11 ポイント悪化、繊維・衣服等横ばい、食料品 26 ポイント、機械鋼材 21 ポイント改善となった。コロナの経済対策が緩み GW と母の日が重なり過去 2 年とは様変わりしたギフト商戦であったとの声も寄せられている。</p> |
| 小売業 | <p>売上 DI2.8 ポイント悪化、採算 DI2.3 ポイント悪化、仕入単価 DI16.7 ポイント改善、販売単価 DI3.4 ポイント改善、資金 DI2.2 ポイント改善、従業員 DI8.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 2.2 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、自動車 10 ポイント悪化、衣料品、その他横ばい、食料品 25 ポイント改善となった。コロナが少し落ち着き、観光関連が賑わってくれることを期待しているとの声も寄せられている。</p> |
| サービス業 | <p>売上 DI41.8 ポイント改善、採算 DI28.8 ポイント改善、仕入単価 DI1.3 ポイント悪化、販売単価 DI23.3 ポイント改善、資金 DI14.8 ポイント改善、従業員 DI16.7 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 10.0 ポイント改善となった。業種別では、運送 33 ポイント、整備業 20 ポイント、その他 8 ポイント悪化、飲食横ばい、理美容・クリーニング 200 ポイント、ホテル・旅館 25 ポイント改善となった。販売価格は値上げしたが、売上の少ない時期なため実感がない。業況は仕入価格も上がっているため不変との声も寄せられている。</p> |